発行 一般社団法人 日本品質管理学会 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507 ホームページ:www.jsqc.org/ CONTENTS

- 2-私の提言 品質不祥事問題と公益社団法人を目指す日本品質管理学会の覚悟
- 2-研究会だより テクノメトリックス研究会
- 3-ルポルタージュ JSQC規格「品質管理教育の指針」講習会ルポ/3月の入会者紹介/行事案内
- 4-行事案内/選挙告示

# 公益社団法人への移行に向けて - 臨時総会開催報告-

一般社団法人日本品質管理学会 第47年度会長 小原 好一

#### 公益法人化の目的

一般社団法人日本品質管理学会は、 第47年度の事業計画に記載の通り公益 社団法人化に向けた準備を進めており ますが、その名の通り公益化は「社会 信頼性の向上」に寄与します。元来より、品質管理学会は公益に資する事業 を推進しておりますが、名実共に公益 事業を展開するために公益社団法人化 を目指します。

加えて、公益社団法人化を通して「財務基盤の強化」を図ります。具体的には、「寄付金優遇税制の活用」などにより、会費、行事参加費に続く運営資金の確保に向けた施策を推進します。

#### 申請書提出の前提となる定款改定

なお、申請に向けた準備は、公益化特別小委員会が主体となり、税理士法人高野総合会計事務所のコンサルティングを得て概ね計画通りの工程で進め、公益認定基準となる「財務3基準(収支相償、公益目的事業費率、遊休財産額)」などへの適合を精査の上、本年5月28日に内閣府に申請書を提出致しました。また、申請に先立ち、定款を公益法人の認定基準に合致させることが前提となることから、5月26日に臨時総会を開催し、定款の改定についてご審議を頂きました。

#### 審議結果の報告

臨時総会では、誤記に関する指摘に

加えて、定款第11条の改定に伴い未納の会費の納入完了まで退会届の受理を保留することが可能になることに対し、「会費入金増を目的とした引き留めがないように明文化しておく必要がある」旨のご意見を頂き、会長一任で趣旨を反映する運びとなりました。また、総会決議後に内閣府より修正指示のあった場合は、会長一任で対応する旨を含めて、議決に至りました。

なお、会費未納者への対応に関する 具体的な手順は「資格審査内規」5項 に定められており、期限は2年間と明 文化されていることを確認しました。 従って、この取り扱いを適切に実行す ることにより、ご指摘の点は回避でき るとの結論に至りましたことを、この 場をお借りしてご報告致します。

#### 公益法人移行の見通し

公益認定に関する標準処理期間は 4か月と定められており、認定書受領後、 公益法人設立の登記日を以って公益法 人へ移行します。従って、早ければ第 48年度の事業開始日となる平成30年 10月1日より「公益社団法人日本品質 管理学会」としての運用を開始します が、現時点では未確定のため、認定書 を受領した段階で、移行日を含めて改 めてご報告させて頂きます。

#### 移行に伴うリスクへの対応

今後は、会計基準の変更に伴う諸規

則の改定、および会計担当者への説明 などを順次進めてまいりますが、その 際に、コストの増加、業務負担の増加 といったリスクを想定し、対策を講じ る必要があると受け止めております。

先ず、公益申請及び移行にかかわる 予算に関しましては、第46年度に「公 益法人化費用」として計上済であり、 現段階では新たな出費は生じないと見 込んでおります。

続いて、業務負担に関しましては、 会計システムなどの移行に伴う一時的 な負担の増加を最低限に留めつつ、移 行後の会計業務のスリム化を進め、 トータルで業務負担の増加を防止する べく注力します。

また、公益法人認定後は行政庁の立 入検査を伴いますが、適正な会計処理 を進めていれば当然ながら支障はな く、コンプライアンス遵守、ガバナン ス強化の観点でプラスになると認識し ております。

#### JSQCの目的の実現に向けて

公益社団法人への移行を通して、本学会の目的である「品質管理に関する学理及び技術の進歩発達を図り、もって学術、産業、社会の発展に寄与すること」の実現に向けて、さらに充実した事業を展開するべく、私自身も全力を尽くしますので、会員の皆様のより一層のお力添えをお願い申し上げ、報告の結びとさせて頂きます。

#### ●私の提言●

# 品質不祥事問題と公益社団法人を目指す 日本品質管理学会の覚悟

(株)キタック 顧問 末岡 徹



昨現で以為くす相。 等至質逸め質祥でて がる管脱てに事いそ

のたびごとに企業のトップが謝罪し、 二度とこのようなことが発生しないよ う努力することを表明している。日本 品質管理学会(JSQC)と、日本科学 技術連盟、日本規格協会はこのような 事態に危機感を強め、2018年2月21日、 早稲田大学小野記念講堂で品質に関す る緊急シンポジウム「品質立国日本を 揺るぎなくするために―品質不祥事の 再発防止を討論する―」を共催した。 シンポジウムでは、問題の重要性を意 識する人々で会場があふれ、パネル ディスカッションでは、企業トップの リーダーシップや経営層の品質に関す る意識の重要性が強調された。そして 最近の品質に関する不祥事について、 問題の本質は何か、問題を防ぐために 組織や社会が取り組むべきことは何か をテーマに活発な意見交換が交わされ た。最後に、日本品質管理学会が、日 本科学技術連盟や日本規格協会をはじ めとした品質経営の志を共にする団体 との連携を深め、経営層に訴求する活 動を展開することが確認された。すな わち、JSQCは、学会として品質不祥 事問題に対して正面から取り組むこと を宣言したことになる。

一方、日本品質管理学会は、2018年 5月26日臨時総会で一般社団法人から 公益社団法人に変わることを決めた。 今回JSQCが目指している公益社団法 人は、実に明治以来110年ぶりに民法 で規定する公益法人制度が廃止され、 まったく新しい制度の下で再発足した ものである。公益社団法人は従来の主 務官庁を離れ、民間非営利部門の自治 組織として自発的に公益活動をするこ とが求められている。品質不祥事問題 の深部には、経済のグローバル化に伴 う構造問題や、職業倫理を含む人材教 育、そして品質管理の一部形骸化など 多くの複雑な要因が潜んでいる。これ らの難問を解決するためには、企業は、 小集団改善活動の継続はもちろん、モ ノづくりの質、人づくり、組織づくり などのマネジメントの質向上など、品 質経営としての基盤戦略活動が強く求 められる。そして日本品質管理学会は、 困難だが最重要な課題に挑戦する覚 悟、すなわち公益ともいうべき国民の 共通目標「品質」に今正面から向き合 う覚悟が求められていると私は思う。

# 研究会だより

### テクノメトリックス研究会

# 統計的手法を中核とした、新たな品質管理手法の開発を目指して

主査 青木 敏(神戸大学)

テクノメトリックス研究会は、今年の10月に25年目を迎えます。この「研究会だより」が皆様に届く6月は、節目となる第100回目の研究会が行われているはずです。これまで、メンバーの入れ替わりはありましたが、研究会の雰囲気はずっと変わらず、研究会の趣旨とともに引き継がれてきています。

テクノメトリックス研究会では、毎回、メンバーが持ち寄ったテーマに対して活発な議論が行われます。ひとつの発表に対し、1時間余りの白熱した質疑応答が行われます。この活発な意見交換が毎回行われる独特な雰囲気が、本研究会の最大の特徴です。発表のテーマは多岐にわたります。グラフィカルモデリングやタグチメソッドは、研究会発足当時から継続して取り上げられ、練り上げられてきた話題です。最近では機械学習手法の品質管理分野での適用に焦点を当てた発表もあります。いたではでいる点で共通しています。また本研究会は、統計的品質管理技術の数理的側面に関する研究会は、統計的品質管理技術の数理的側面に関する研

究を重視していることも特徴です。特にここ数年は、数理的側面への関心の強いメンバーが増え、新たな視点からの話題提供が多く見られます。もちろん、数理的な側面の強い話題であっても、単なる理論として終わることのないよう、応用分野への貢献は常に意識されています。

本研究会での議論は、年次大会での学会発表、品質誌への論文投稿として学会に還元されています。研究会のメンバーによる品質管理に関する著書も多数あります。昨年は新たな試みとして、日本統計学会春季集会において日本品質管理学会と共催で、企画セッション『テクノメトリックスー品質改善を実践するための統計数理ー』が実施されました。機械学習やビッグデータに注目が集まることの多い現在において、統計的品質管理が、学会、産業界の双方から注目されている重要分野であることを、この共催で改めて認識しました。今後も、本研究会が、わが国の品質管理活動の一助となるよう、努力していきたいと考えています。

## JSQC規格「品質管理教育の指針」講習会「TQMの実践に必要な人材を育てる」ルポ

山本 和芳(標準委員会)

2018年3月15日休の午後、日科技連新宿本部 RoomAにおいて、JSQC規格「品質管理教育の指針」 講習会が開催されました。2017年11月にJSQC-Std 41-001 「品質管理教育の指針」がJSQC規格の7番目 として制定された後、今回が初めての開催となります。 定員80名でしたが、キャンセル待ちが出るほどで、当 日は93名の参加者で会場は満席状態でした。

今回、病院関係や食品関連の企業等も含め幅広い分 野の方、非会員の方も多く参加され、品質管理教育の 関心の高さが感じられました。

冒頭、安藤標準委員会委員長から開催挨拶と委員の 方から「汗と涙の結晶」と表現された制定までの経緯 やねらいについてのご説明がありました。

また、現在、「新製品・新サービスの開発管理の指針」 が検討されていることも紹介されました。

続いて、規格制定に携わった6名の委員から、規格 の内容を7つのパート「品質管理教育の基本」「品質管 理教育の運営のプロセス及び組織体制」「品質管理教 育の計画」「研修プログラムの運営」「品質管理教育の 評価・改善|「TQM推進段階別・部門別・地域別の品 質管理教育」「付表A」に分けて、実経験の内容も織り 交ぜながら、わかりやすく丁寧に解説していただきま した。

中條原案作成委員会委員長が司会・進行された最後 の全体討論(質疑応答)の場では、「経営者に品質管 理教育を受けてもらうには、強烈な危機的状況を認識 してもらうことが必要 | 「品質不祥事を起こさせない ためにも品質管理教育が重要」等、役立つ情報が盛り 沢山の解説、回答をいただきました。

参加者からは、「取り組むべき教育の理解と目的意 識を持って教育に参加という言葉が印象的でした。」 「研修プログラムの考え方(PDCA)の中で実践の確 認(CA)が弱いことに気づきました。」「研修を成功 させるには事務局の力が大切であることが理解できま した。などの声があり、非常に有意義な講演会でした。

#### 2018年3月の入会者紹介

2018年3月19日の理事会におい て、下記の通り正会員3名、準会員2名 の入会が承認されました。

(正会員3名)○福井 郁磨(MOSHIMO 研)○宗像 令夫(PQM総合研究所) ○奈良岡 悟(電通国際情報サービス)

(準会員2名) ○植木 裕佳里·赤松 誠也(名古屋丁業大学)

> 正 会 員:1866名 準 会 員:49名 職域会員:45名

賛助会員:142社188口

賛助職域会員:3名 公共会員:17口

# 行事案内

#### ●JSQC規格「方針管理の指針」講習会

テーマ: 方針管理によって改善・革新 を促進する

日 時:2018年6月22日金13:00~17:30

会 場:日科技連東高円寺ビル地下1階講堂

定 員:100名 プログラム:

JSQC規格 「方針管理の指針 | 制定のねらい

- 1. 方針管理の基本
- 2. 部門における方針管理の進め方
- 3. 組織全体の方針管理の進め方と方 針管理の推進

全体討論

申込締切:2018年6月15日(金)

詳細·申込:http://www.jsqc.org/q/news/ events/index.html#h300622

#### ●JSQC規格「方針管理の指針」講習会(福岡)

テーマ: 方針管理によって改善・革新 を促進する

日 時:2018年7月3日火13:15~16:45

会場:カンファレスASC5階A室

定 員:40名

講 師:村川賢司氏(前田建設工業)

申込締切: 2018年06月26日(火)

詳細·申込:http://www.jsqc.org/q/news/ events/index.html#h300703

#### ●第164回シンポジウム (関西)

テーマ:しなやかな現場をめざして ~安全マネジメントの新しい考 え方「レジリエンス」を知る~ 日 時:2018年7月10日火13:15~17:00 会 場:大阪大学中之島センター10階 佐治敬三メモリアルホール

プログラム:

講演1「失敗を防ぐ」から「成功を 続ける」マネジメントへ

> ~しなやかな現場力を創るには~ 芳賀 繁氏(社会安全研究所)

講演2"しなやかさ"を実現する組織の あり方 ~レジリエンス、高 信頼性組織の観点から~

長谷川 尚子氏(電力中央研究所)

パネルディスカッション

司会: 今野 勤氏(神戸学院大学)

参加費:会 員4,000円 非会員6,000円 準会員2,000円一般学生3,000円 ※当日払い

申込先: 関西支部事務局

詳 細:http://www.jsgc.org/g/news/ events/index.html#h300710

#### ●第108回クオリティトーク(東日本)

テーマ: QCサークル活動の再考と小集 団改善活動の活性化

ゲスト: 久保田 洋志氏(広島工業大学) 日 時:2018年7月10日火18:30~20:50 会 場:日科技連東高円寺ビル地下2階研修室

定 員:30名

参加費:会員3,500円 非会員4,500円

準会員・一般学生2,500円

JUNE 2018, No.365/3

(含軽食・当日払い)

申込先:本部事務局

詳 細:http://www.jsqc.org/q/news/

events/index.html#h300710\_2

#### ●第165回シンポジウム(中部)

テーマ:ヒューマンエラーのしくみを考える~「失敗学」の観点と「労働災害」 「医療現場」の実例を通して~

日 時:2018年7月23日(月)13:00~17:00 会 場:名古屋工業大学4号館ホール

定 員:180名 プログラム:

基調講演ヒューマンエラーのしくみを

考える

飯野 謙次氏(失敗学会)

事例講演1労働災害の事例から「ヒューマンエラー防止」を考える

三国 外喜男氏(丸の内労務管理事務所)

事例講演2医療現場で発生するエラーと その対策

長尾 能雅氏 (名古屋大学)

パネルディスカッション

パネルリーダー:荒川 雅裕氏(結構工業だ)

**参加費**:会 員4,320円 非 会 員5,400円 準会員2,160円 一般学生2,700円

**申込先**:中部支部事務局

申込締切:2018年7月9日(月) 詳細:http://www.jsqc.org/q/news/

events/index.html#h300723

#### ●JSQC規格「プロセス保証の指針」講習会

テーマ: 品質はプロセスで作りこむ

日 時:2018年7月30日(月)13:00~17:30

会 場:日科技連東高円寺ビル地下1階講堂

定 員:80名

申込締切: 2018年7月23日(月)

詳細・申込: http://www.jsqc.org/q/news/

events/index.html#h300730

#### ●第129回講演会(東日本)

テーマ: 技能科学: ものづくりの技能を科学する 日 時: 2018年8月6日(月)13:15~17:00

会 場:日科技連東高円寺ビル2階講堂

定 員:100名 プログラム:

> 技能科学と品質管理 圓川 降夫氏(職業能力開発総合大学校)

> 2. 身体性認知科学による技能の解明 不破 輝彦氏(同)

> > 塚崎 英世氏(同)

- 3. 国際技能五輪における技の見える化 菊池 拓男氏(同)
- 4. AR、VRを用いた技能伝承のスピード化 西澤 秀喜氏(同)

5. 構造損傷検出の技の科学的見える化 遠藤 龍司氏(同)

6. 金型製作の匠の技の見える化とe教材開発

丹敦氏(同 基盤整備センター)参加費:会員4,320円(締切後 4,860円)

非会員8,640円(締切後 9,720円) 準会員2,160円 一般学生3,240円

※当日払いは別金額

申込締切: 2018年7月30日(月)

詳細・申込:http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h300806

#### ●JSQC規格「日常管理の指針」講習会(広島)

テーマ:日常管理の本質を学ぶ

日 時:2018年8月8日(水)13:00~17:00

会 場:広島工業大学広島校舎

定 員:50名

講 師:中條 武志氏(中央大学)

申込締切: 2018年8月1日(水)

詳細・申込:http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h300808

#### ●第117回研究発表会(中部)

日 時:2018年8月29日(水)

会 場:名古屋工業大学

申込締切:8月22日(水) 申込先:中部支部事務局

詳 細:http://www.jsqc.org/q/news/

events/index.html#h300829

#### ●第403回事業所見学会(東日本)

テーマ:いま、商用車がおもしろい! ーバスやトラックが乗用車以上 のクオリティになる時代-

日 時:2018年9月4日火13:30~16:30

見学先:いすゞ自動車㈱藤沢工場&いすゞプラザ

定 員:30名

※同業他社のお申し込みはご遠慮ください。

参加費:会 員3,000円 非会員4,500円 準会員2,000円 一般学生2,500円

※当日払い

申込先:本部事務局

#### ●第118回研究発表会 (関西) 発表募集

日 時:2018年9月14日金

会場:大阪大学中之島センター 申込締切:発表申込締切:7月5日休

予稿原稿締切:8月24日金必着

申込先: 関西支部事務局

詳 細: http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h300914\_2

#### ●第109回クオリティトーク(東日本)

テーマ:〈5ゲン主義〉語り継ぐものづく りの哲学

#### 代議員・役員選挙告示

日本品質管理学会第48年度~第49年度(2018年11月17日総会~2019年総会)の代議員ならびに役員の選挙を次の日程で行います。

立候補・推薦受付:

6月18日(月)~29日(金)

投票依頼:7月24日(火)~27日(金)

投票締切日: 8月31日 金 開票日: 9月5日 休

ゲスト: 古畑 慶次氏 (デンソー技研センター) 日 時: 2018年9月26日(水18:30~20:50

会 場:日科技連東高円寺ビル5階研修室

定 員:30名

**参加費**: 会員3,500円 非会員4,500円 準会員・一般学生2,500円

(含軽食・当日払い)

申込先:本部事務局

詳細: http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h300926

#### ●第134回講演会(東日本)

テーマ:レジリエンス工学の最前線 "想定外" に備えるために

日 時:2018年10月10日(水)13:25~17:00

会 場:日科技連本部 RoomA

定 員:100名 プログラム:

1. レジリエンス工学 古田 一雄氏(東京大学)

2. 自然災害とレジリエンス 糸井 達哉氏(東京大学)

3. 重要社会インフラのレジリエンス 菅野 太郎氏(東京大学)

4. エネルギーシステム 小宮山 涼一氏(東京大学)

参加費:会 員4,320円 (締切後 4,860円) 非会員8,640円 (締切後 9,720円) 準会員2,160円 一般学生3,240円 ※当日払いは別金額

申込締切: 2018年10月3日(水)

詳細・申込: http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h301010

#### 行事申込先

JSQCホームページ: www.jsqc.org/

本 部: FAX 03-5378-1507 E-mail:apply@jsqc.org

中部支部: FAX 052-203-4806

E-mail:nagoya51@jsa.or.jp

関西支部: FAX 06-6341-4615 E-mail:kansai@jsqc.org